Ⅱ．教育の内容

１．教育課程

本学教育の基本目標「「生きる」を考え、「働く」を学ぶ」を目指し、ガイダンス、教育課程、資格取得用補助教育、進路指導、授業評価、国際交流、地域社会活動、ファカルティ・ディベロプメント(FD)、学生募集、教職員人事、施設整備、組織改革など、教育に関連するすべてにおいて、この基本理念を推進している。また、「語学力」「ICT 力」「マネジメント力」「コミュニケーション力」の 4 つを土台とし、プロジェクト学習をカリキュラムの中核として 2 年間で真のチカラを養う教育を展開している。

本学の教育課程は、総合教育科目等を中心とする両学科共通科目、各学科の専門科目、補助科目によって構成されている。

（１）両学科共通科目

高等教育機関の存在意義は、専門科目の学修のみにあるのではなく、社会人として、すぐれた教養と考える力をもった人材を輩出するところにある。従って、カリキュラムにおける両学科共通科目は、専門科目履修に先立つ基礎教育として重要な役割を果たすために、情報処理学科と国際文化学科に共通の内容をもつ基礎科目群として開講されている。ここでは、各科目の独自性を維持しつつ、高等教育機関の特色である、広い視野を備えた学生の育成を図るという教育理念および本学教育の基本目標のもとに、各科目が構成されている。特に、短大として、教養教育を専門教育等のすべての教育の基盤として強化するという方針から、従来の教養科目を配した総合教育科目を軸に、4 つの土台を支える共通基礎科目、プロジェクト学習やキャリア形成の基礎となる初年次教育をより一層充実させている。

１）構成

- 現代文明論
- 総合教育
- 初年次教育
- スポーツ
- 共通基礎
- 外国語
- 海外留学

２）2013 年度現代文明論Ⅰ・II 概要

東海大学は、学園全体において、その教育の中心軸に「現代文明論」を置いている。その目的は、本学園建学の理念について理解を深めるとともに、文明の過去・現在・未来を巡りながら、広く自らの思想、ものの見方、考え方を涵養することにある。

この学園全体の教育方針を踏まえ、本学における現代文明論の目標は、「学生が現代文明の今を認識するとともに、現代文明とその諸問題について、自らの問題として考え、解決しようとする意識を養うこと」としている。その目標を踏まえ、まず１年次春に開講される「現代文明論 I」では、東海大学の建学の精神とその教育理念について学ぶ講義を中核として、現代文明の諸様相を幅広く学ぶ講義群を配した。次に、１年次秋に開講される「現代文明論 II」では、現代文明論の思想と自らの学びとの関わりを再認識させる講義に加え、国際文化学科、情報処理学科それぞれの専門分野から、特徴的な内容をピックアップした講義を配した。

また、大きな特徴として、上記の講義群に加えて配された講義区分毎のディスカッション授業がある。（現代文明論委員が実施を担当）。これは、「学生が自らの思想を培う力」を育むことを狙いとした活動であり、学生自らが主体的に学ぶ力を段階的に高められるような授業展開を図るものである。また、全ての講義について「現代文明論ｅラーニング教材」として収録・編集し、必要に応じて履修者に閲覧させている。この教材は、実講義を録音し、講師の提示するパワーポイント等の資料と連動させたもので、実際の授業を受けているイメージで視聴する事ができる。この教材はやむ終えない事情で欠席が重なった者、文章作成能力に欠けているためレポート作成が著しく劣る者などに、学期末の補講として個別に視聴を指導しており、一定の効果を上げている。

なお、建学の精神に対する解釈の見直しと定期的な点検のために、理事長・総長をセンター長とし、常任の研究員を擁する現代文明論研究センターを設置している。また法人学務局が主催する現代文明論教育機関連絡調整会議が、各大学・短期大学、及び付属高等学校選出の委員によって年２回開催され、授業編成を始めとする現代文明論の運営の統一を図っている。

2013 年度 現代文明論Ⅰ 講義編成

回数	授業日	講義区分と題目		講師
1	4／11	ガイダンス		現代文明論委員
2	4／18	建学の精神をさぐる	1. 東海大学建学の思想とその源流	神山　高行（福岡短期大学学長）
3	4／25		2. 現在に引き継がれる 望星学塾の思想	橋本　敏明 （学校法人東海大学常務理事、 高等教育部部長）
4	5／2	現代文明と その諸問題	1. 現代文明を導いた哲学の世界	真下　仁（国際文化学科）
5	5／9		2. 英文学から考える 文明の歴史と人文科学	神山　高行（国際文化学科）
6	5／16		3. 医療の世界から見た 現代文明における諸問題	灰田　宗孝 （東海大学医療技術短期大学学長）
7	5／23	ディスカッション-1		現代文明論委員
8	5／30	現代文明と その諸問題	4. 現代文明における科学の役割	柴田　正憲 （東海大学短期大学部学長）
9	6／6		5. 社会教育における 水族館・博物館の役割	高田　浩二 （マリンワールド海の中道館長）
10	6／13		6. インドの光と影	赤井　ひさ子（情報処理学科）
11	6／20		7. 現代日本における 農業とその未来	村田　達郎 （東海大学農学部学部長）
12	6／27		8. 数字文化から見た 中国と日本との繋がり	チョウ　アンナ（国際文化学科）
13	7／4		9. 環境と現代文明	伊津　信之介（情報処理学科）
14	7／11	ディスカッション-2		現代文明論委員
15	7／18	総括		現代文明論委員

2013 年度 現代文明論Ⅱ 講義編成

回数	期日	講義区分と題目		講師
1	9／26	ガイダンス		現代文明論委員
2	10／3	建学の精神を活かす	1. 東海大学の教育理念と未来	蟹江　秀明 （東海大学常務理事）
3	10／10		2. 多角的なものの見方と考え方	中村　武徳 （東海大学付属自由ケ丘幼稚園園長）
4	10／17	ディスカッション-1		現代文明論委員
5	10／24	専門分野から語る文明 (1)国際文化学	1. 日米の文化交流	ウェア ジーン リー （国際文化学科）
6	10／31		2. 観光ビジネスの世界	藤本　幸男（国際文化学科）
7	11／7		3. スポーツ指導とその課題	平　清孝 （東海大学付属第五高等学校副校長）
8	11／14		4. 東アジアにおける言葉と文化	林　大仁（国際文化学科）
9	11／21	ディスカッション-2		現代文明論委員
10	11／28	専門分野から語る文明 (2)情報学	1. IT 社会を支える ハードウェアとその進化	矢原　充敏（情報処理学科）
11	12／5		2. Web とプログラミングの世界	八尋　剛規（情報処理学科）
12	12／12		3. IT 社会の発展と数理科学	宮川　幹平（情報処理学科）
13	12／19		4. ディジタルアートの世界	原田　慎吾（情報処理学科）
14	1／9	ディスカッション-3		現代文明論委員
15	1／16	総括		現代文明論委員

３）カリキュラム

両学科共通科目（2013年度生）

科目の種別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター 開講はセメスター単位。数字は 1週あたりの時間数。集中授業の場合は集」と記載）				教員配置 兼担非常勤には※」マーク）	受講者数 セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定）	e-ﾗｰﾆﾝｸﾞ	備考
					1	2	3	4				
現代文明論	現代文明論Ⅰ	講義	○	2	2				専任	78		4単位必修
	現代文明論II	講義	○	2		2			専任	72		
総合教育	観光とレジャー	講義	●	2	2	2			専任	60		選択必修4単位以上
	健康とスポーツ	講義	●	2	2	2			専任	60		
	言葉と文化	講義	●	2	2	2			専任	67		
	企業と社会	講義	●	2	2	2			専任	64		
	情報とメディア	講義	●	2	2	2			専任	43		
初年次教育	プロジェクト基礎	講義	○	2	2				専任	77		5単位必修
	フレッシュマンゼミナール	演習	○	1	2				専任	76		
	キャリアプラニング	講義	○	2		2			専任	69		
スポーツ	スポーツ理論及び実習Ａ	実習	×	1	2				専任	43		
	スポーツ理論及び実習Ｂ	実習	×	1		2			専任	45		
共通基礎	３カ国語初級	講義	○	2	2				専任	87		8単位必修
	情報リテラシーＡ	実習	○	1	2				専任	79		
	情報リテラシーＢ	実習	○	1		2			専任	82		
	マネジメント基礎	講義	○	2		2			専任	76		
	コミュニケーション基礎	講義	○	2		2			専任	86		
外国語	英語I	講義	●	1	2				専任	67		選択必修2単位以上
	英語II	講義	●	1		2			専任	55		
	英語III	講義	●	1			2		専任			
	英語IV	講義	●	1				2	専任			
	韓国語I	講義	●	1	2				非常勤※	43		
	韓国語II	講義	●	1		2			非常勤※	27		
	韓国語III	講義	●	1			2		専任			
	韓国語IV	講義	●	1				2	専任			
	中国語I	講義	●	1	2				専任	53		
	中国語II	講義	●	1		2			専任	30		
	中国語III	講義	●	1			2		専任			
	中国語IV	講義	●	1				2	専任			
海外留学	ハワイ短期留学	講義	×	2	集				専任	12		
	韓国短期留学Ａ	講義	×	2	集				専任	18		
	韓国短期留学Ｂ	講義	×	2		集			専任	15		
	中国短期留学	講義	×	2		集			専任	8		
	海外短期留学	講義	×	4	東海大学海外派遣留学制度その他の留学を含む				専任	0		
	海外中期留学	講義	×	6					専任	0		
	海外長期留学	講義	×	8					専任	0		
	海外研修（航海）	講義	×	4		集			専任	0		

両学科共通科目（2012年度生）

科目の種別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター 開講はセメスター単位。数字は1週あたりの時間数。集中授業の場合は集」と記載）				教員配置 兼担非常勤には※」マーク）	受講者数 セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定）	e-ﾗｰﾆﾝｸﾞ	備考
					1	2	3	4				
現代文明論	現代文明論Ⅰ	講義	○	2	2				専任	81		4単位必修
	現代文明論II	講義	○	2		2			専任	78		
総合教育	観光とレジャー	講義	●	2	2	2			専任	85		選択必修4単位以上
	健康とスポーツ	講義	●	2	2	2			専任	129		
	言葉と文化	講義	●	2	2	2			専任	90		
	企業と社会	講義	●	2	2	2			専任	83		
	情報とメディア	講義	●	2	2	2			専任	97		
初年次教育	プロジェクト基礎	講義	○	2	2				専任	82		5単位必修
	フレッシュマンゼミナール	演習	○	1	2				専任	77		
	キャリアプラニング	講義	○	2		2			専任	73		
スポーツ	スポーツ理論及び実習Ａ	実習	×	1	2				専任	33		
	スポーツ理論及び実習Ｂ	実習	×	1		2			専任	31		
共通基礎	３カ国語初級	講義	○	2	2				専任	89		8単位必修
	情報リテラシーＡ	実習	○	1	2				専任	86		
	情報リテラシーＢ	実習	○	1		2			専任	74		
	マネジメント基礎	講義	○	2		2			専任	75		
	コミュニケーション基礎	講義	○	2		2			専任	84		
外国語	英語I	講義	●	1	2				専任	70		選択必修2単位以上
	英語II	講義	●	1		2			専任	58		
	英語III	講義	●	1			2		専任	37		
	英語IV	講義	●	1				2	専任	23		
	韓国語I	講義	●	1	2				専任	59		
	韓国語II	講義	●	1		2			専任	29		
	韓国語III	講義	●	1			2		専任	12		
	韓国語IV	講義	●	1				2	専任	15		
	中国語I	講義	●	1	2				専任	53		
	中国語II	講義	●	1		2			専任	41		
	中国語III	講義	●	1			2		専任	33		
	中国語IV	講義	●	1				2	専任	16		
海外留学	ハワイ短期留学	講義	×	2	集				専任	14		
	韓国短期留学Ａ	講義	×	2	集				専任	26		
	韓国短期留学Ｂ	講義	×	2		集			専任	11		
	中国短期留学	講義	×	2		集			専任	7		
	海外短期留学	講義	×	4	東海大学海外派遣留学制度その他の留学を含む				専任	0		
	海外中期留学	講義	×	6					専任	4		
	海外長期留学	講義	×	8					専任	0		
	海外研修（航海）	講義	×	4		集			専任	2		

４）自己点検・評価

現代社会に即した人材育成を考えたとき、各科目で養った知識とスキルを実践活動による教育を通じて統合化・全体化し、経験から得た統合されたチカラを養っていく新たな教育システムを構築して行くことが重要である。そのため、2012 年度にカリキュラムを抜本的に見直し、「語学力」「ICT 力」「マネジメント力」「コミュニケーション力」の４つを土台として、プロジェクト学習を通じて２年間で真のチカラを養う教育を実現する構成とした。第１セメスターから「プロジェクト基礎」を配置し、学生に対してその意識付けを行うと同時に、「３カ国語初級」や４つの土台を支える科目など特色あるカリキュラムを通して、実社会が求める総合的なチカラを有した学生の育成を目指して完成年度を迎えた。

各学科の専門科目の中で実施されるプロジェクト学習では、各プロジェクトで一定の成果を上げている。また、進路に関しても就職、編入、留学など十分な実績を上げており、特に留学に関しては韓国の大学への編入など近年にない数の学生が卒業後に海外を目指している。2012 年度に改定したカリキュラムの完成年度を迎え、改定の狙いであった４つの土台をベースとして総合的なチカラを養うという一つの目的は一様の成果を上げてきているのではないかと言える。

しかしながら、多様化した学生が入学している昨今の状況において、必修科目の多さが、多様な進路、学習目標等を有する学生の履修状況を妨げる要因となっている点が見受けられる。また、進路支援や資格取得を目的とする補助科目群を卒業要件から除外しているため、受講学生のモチベーション維持が困難であると同時に、履修者の出席率が低下するなどの問題点も見えてきている。さらには、教育目標である総合的チカラに関して、学生個々の成長度合いをどのように評価していくのかについて、本学で稼働させている学生カルテ（Student Relationship Management System／SRMS）の利用拡大やポートフォリオとの連動などを視野に入れていく必要がある。2012 年度に改定したカリキュラムの完成年度を迎えたが、これら問題点の改善に向けて検討していく必要がある。

（２）情報処理学科

１）教育方針・構成

21 世紀の ICT(Information and Communication Technology / 情報通信技術)社会では、予想をはるかに越えるスピードで社会の情報化が進んでおり、あらゆる分野のデジタル化・モバイル化・ネットワーク化が進展していく中で、新しい事業分野が創出され、産業・経済・社会を大きく変革させている。そのため、従来からの情報処理産業のみならず、事務・営業・財務・医療など、広範な領域において ICT は不可欠なものとなっている。

情報処理学科では、モバイル情報機器、ソーシャルネットワーク、クラウドサービスなど新しい情報の流れを幅広く活用するスキルを身につけ、それらを様々なビジネス現場でより有効に応用し、即戦力として活躍できるだけの ICT 活用力と応用力を育むことを教育の目標としている。また、ビジネスの実務者として柔軟に対応できるだけでなく、近未来コンピューティングを志向できる総合的なディジタル教養を有する人材の育成を図っている。

これを実現するために、情報処理学科では、ディジタルコンテンツを表現あるいは作成する分野、エンドユーザとしてコンピュータを業務推進のために活用する側の分野を中心にカリキュラムを構築し、教育を展開している。

メディアデザインコース

情報処理分野におけるマルチメディアの進展により、現在の情報処理業界においては、一つの能力に長けた人材だけでなく、Web 制作、映像、音楽、プログラム、情報発信などの知識と技術をバランスよく兼ね備えた人材が求められている。そこで、「Web デザイン」「CG」「プログラミング」「システムマネジメント」等の科目内容を中心に構成し、「プロジェクト研究」で実践教育を通じて個々の科目で修得した知識とスキルを総合的に活用・応用するチカラの育成を行っている。

卒業後の活躍可能分野は、Web コンテンツ制作やその関連業務、CG 関連業務や通信・情報サービス分野、システムエンジニアなど企業等での情報化推進部門やネットワーク関連業務などである。

オフィスマネジメントコース

オフィス業務を中心として、広報メディア、接客・販売、医療事務などビジネスの現場において、ICT を活用して各種業務をより円滑かつ効率的に運用するための必要な基礎知識と技術は、業務を遂行する上で極めて重要な要素である。そこで、ビジネス基礎や流通に関する知識やデータ分析、データ活用手法などを中心に学ばせ、ICT 化が進むビジネス社会の中で即戦力として活躍できる人材育成を目指している。また、「プロジェクト研究」で実践教育を通じて個々の科目で修得した知識とスキルを総合的に活用・応用するチカラの育成を行っている。

卒業後の活躍可能分野は、銀行・証券会社を含む一般事務、医療事務、広告業界や印刷関連業務、各種接客販売業務などが期待できる。

＜重点資格＞
情報処理技術者試験、IT パスポート試験、日商 PC 検定（文書作成）、日商 PC 検定（データ活用）、
日商簿記検定、秘書検定、CG 検定、フォトマスター検定、保険請求事務技能検定

２）カリキュラム

a. 開講科目（学科専門科目）一覧

学科専門科目（2013年度生）

科目の種別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター 開講はセメスター単位。数字は 1週あたりの時間数。集中授業の場合は集」と記載）				教員配置 兼担非常勤には隊」マーク）	受講者数 セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定）	e-ﾗｰﾆﾝｸﾞ	備考
					1	2	3	4				
情報共通	情報基礎	講義	×	2	2				専任	31		
	ＩＴ総合演習I	演習	×	2	2				専任	24		
	ＩＴ総合演習II	演習	×	2		2			専任	13		
	メディア基礎演習Ａ	演習	×	2		2			専任	20		
	メディア基礎演習Ｂ	演習	×	2		2			専任	20	*	
	メディア基礎演習Ｃ	演習	×	2		2			専任	12		
	広報メディア	講義	×	2			2		専任			
メディアデザイン	ＩＴシステム論Ａ	講義	×	2		2			専任	17	*	
	ＩＴシステム論Ｂ	講義	×	2			2		専任			
	ＩＴシステム論Ｃ	講義	×	2			2		専任			
	メディアデザイン実習ＡI	実習	×	2			4		専任			
	メディアデザイン実習ＡII	実習	×	2				4	専任			
	メディアデザイン実習ＢI	実習	×	2			4		専任		*	
	メディアデザイン実習ＢII	実習	×	2				4	専任		*	
	ディジタル広報	講義	×	2			2		専任			
オフィスマネジメント	オフィスデータ活用実習ＡI	実習	×	1		2			専任	14		
	オフィスデータ活用実習ＡII	実習	×	1			2		専任			
	オフィスデータ活用実習ＢI	実習	×	1			2		専任			
	オフィスデータ活用実習ＢII	実習	×	1				2	専任			
	先端ビジネス論Ａ	講義	×	2		2			専任	17	*	
	先端ビジネス論Ｂ	講義	×	2			2		専任		*	
	先端ビジネス論Ｃ	講義	×	2				2	専任			
	ビジネス演習Ａ	演習	×	2			2		専任			
	ビジネス演習Ｂ	演習	×	2				2	専任			
プロジェクト研究	プロジェクト研究I	演習	○	1		2			専任	18		3単位必修
	プロジェクト研究II	演習	○	1			2		専任			
	プロジェクト研究III	演習	○	1				2	専任			

学科専門科目（2012年度生）

科目の種別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター 開講はセメスター単位。数字は1週あたりの時間数。集中授業の場合は集」と記載）				教員配置 兼担非常勤には隊」マーク）	受講者数 セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定）	e-ラーニング	備考
					1	2	3	4				
情報共通	情報基礎	講義	×	2	2				専任	41		
	ＩＴ総合演習I	演習	×	2	2				専任	29		
	ＩＴ総合演習II	演習	×	2		2			専任	20		
	メディア基礎演習Ａ	演習	×	2		2			専任	27		
	メディア基礎演習Ｂ	演習	×	2		2			専任	16	＊	
	メディア基礎演習Ｃ	演習	×	2		2			専任	21		
	広報メディア	講義	×	2			2		専任	21		
メディアデザイン	ＩＴシステム論Ａ	講義	×	2		2			専任	11	＊	
	ＩＴシステム論Ｂ	講義	×	2			2		専任	14		
	ＩＴシステム論Ｃ	講義	×	2			2		専任	10		
	メディアデザイン実習ＡI	実習	×	2			4		専任	9		
	メディアデザイン実習ＡII	実習	×	2				4	専任	8		
	メディアデザイン実習ＢI	実習	×	2			4		専任	9	＊	
	メディアデザイン実習ＢII	実習	×	2				4	専任	15	＊	
	ディジタル広報	講義	×	2			2		専任	28		
オフィスマネジメント	オフィスデータ活用実習ＡI	実習	×	1		2			専任	19		
	オフィスデータ活用実習ＡII	実習	×	1			2		専任	13		
	オフィスデータ活用実習ＢI	実習	×	1			2		専任	18		
	オフィスデータ活用実習ＢII	実習	×	1				2	専任	17		
	先端ビジネス論Ａ	講義	×	2		2			専任	21	＊	
	先端ビジネス論Ｂ	講義	×	2			2		専任	12	＊	
	先端ビジネス論Ｃ	講義	×	2				2	専任	8		
	ビジネス演習Ａ	演習	×	2			2		専任	17		
	ビジネス演習Ｂ	演習	×	2				2	専任	3		
プロジェクト研究	プロジェクト研究I	演習	○	1		2			専任	20		3単位必修
	プロジェクト研究II	演習	○	1			2		専任	19		
	プロジェクト研究III	演習	○	1				2	専任	19		

ｂ．履修可能科目および卒業要件について

情報処理学科に所属する学生は、情報処理学科の学科専門科目のほか、項目（１）で挙げた両学科共通科目を履修できる。また、国際文化学科の学科専門科目についても、原則として履修可能である。このほか、１・２セメスターの学生が、３・４セメスターの科目を受講することは原則として認めない。

卒業要件としては、両学科共通科目および学科専門科目に設定された必修科目（必選別に○マークのある科目）を全て合格し、かつ、選択必修科目（必選別に●マークのある科目）の条件を満たし、合計で 62 単位以上の単位を取得することである。ただし、国際文化学科の学科専門科目については、卒業要件として最大で 20 単位までしか認めない。

３）自己点検・評価

モバイル情報機器、ソーシャルネットワーク、クラウドサービスなど極めて速い ICT の流れに対応し、多様化する学生のニーズにこたえ、より効果のある教育を行うために科目の見直しを図りながら教育改善に努めてきた。その中で、2011 年度に「プロジェクト実践」を新たに組込み、2012 年度より「プロジェクト研究」としてカリキュラム中核として位置づけた。現在の ICT を中心としたビジネス業務においては、一つの能力に長けた人材ではなく、様々な ICT 機器やソーシャルメディアサービスを自由に扱いこなし、それらを組合せて新しいコンテンツや発想を創出するチカラが極めて重要である。このことから、「プロジェクト実践」は、実社会における日常業務において ICT を総合的に活用するチカラを養成するために、個々の科目で修得した知識とスキルを実践活動による教育を通じてつなぎあわせるための重要な役割を担っている。

また、情報系国家資格である基本情報技術者試験についても、午前試験免除の申請を継続すると共に、資格支援である補助科目群を設けて随意科目扱いとすることで、各資格に柔軟に対応できる体制とし、

ている。
２年目を迎えた「プロジェクト実践」では、学生の自主的活動が目立つようになり、問題解決能力、行動力、企画力などで成長の跡がうかがえ、当初の目的に沿った成果が得られてきている。学生個々の成長状況については、ポートフォリオシステムを実験的に運用し、成長指標をどのように定義していくか等について議論を進めている。「プロジェクト実践」をさらに充実したものとするために、カリキュラムの一部見直しも視野に入れ、体制の強化を推進していく必要がある。

（３）国際文化学科

１）教育方針・構成（カリキュラムポリシー）

国際文化学科では、グローバル化が進展する国際社会で活躍できる人材の育成という従来からの教育目標を堅持しながら、2012 年度のカリキュラムの刷新に伴い、世界最大の国際言語である英語を核とし、東アジアでの需要が高まる中国語と韓国語の学修に特化した「英語・韓国語・中国語コース」、九州新幹線の開通や東アジアの玄関口として国内外の観光産業の盛んな地である福岡において依然として人気の高いレジャー・観光関連産業に従事する人材を育成する「レジャー＆ツーリズムコース」、さらに健康・運動への関心の高まりからスポーツを支える人材を育成する「スポーツマネジメントコース」の３つのコースを設置している。

これらの３つのコースを配して、国際文化学科では、カリキュラムの刷新にあたり、全体のコンセプトとして次の４点に重点を置いて充実を図った。まず第１に、語学教育（英語・韓国語・中国語）の充実。ここでは特に、週２回開講による会話中心の実践型の語学教育や習熟度別英語クラスの開講、語学資格の授業の充実などを推進した。第２に、レジャー＆ツーリズム及びスポーツマネジメントコースにおける体験型授業の導入。ここでは例えば、プロジェクト研究における屋外授業や旅行関連の資格取得のための集中講義、スポーツ施設への訪問授業などが挙げられる。第３に、教養教育の充実。ここでは特に語学教育との連動を想定して、専門教育における海外及び日本の文化・歴史に関する科目の充実を図った。第４に、留学制度の充実。英語、韓国語、中国語にそれぞれ２～３週間の短期語学研修を設け、さらに１セメスター（４か月）の交換留学（韓国）の制度を設けた。また、卒業後に留学を希望する学生に対しては、それぞれのネイティブ教員による個別の留学指導を行っている。

なお、国際文化学科と情報処理学科の共通のカリキュラムとして、３カ国語初級、情報リテラシー、マネジメント基礎、コミュニケーション基礎、フレッシュマンゼミナールの５つの科目を必修とし、語学、ICT、社会人基礎力の醸成、初年次教育の推進に努めている。

英語・韓国語・中国語コース

公共施設の表示の他、公共交通機関のアナウンスなど、日本語だけでなく、英語を初め、昨今、韓国語や中国語で行われることも、もはや珍しいことではない。アジアの時代を迎え、国際言語である英語はもとより、経済や文化交流を通じて韓国語と中国語への関心と需要が急速に高まっている。このような背景を考慮しながら、本コースでは英語・韓国語・中国語の修得を中心に科目を設置し、各国のネイティブ教員による指導のもと、実用的なコミュニケーション能力はもちろん、それぞれの国々の文化や歴史を学ぶことにより、単なるツールとしてだけではない語学力を身に付けさせることをコースの教育目標としている。また本コースでは、短期語学研修や留学制度、さらにはレジャー＆ツーリズムコースの科目と組み合わせて履修することにより、実社会での進路に対応した学修を行うことができる。

レジャー＆ツーリズムコース

働くだけでなく、生活や人生を楽しむことが今日の社会では重要になっている。こうした認識を背景に、本コースでは、働くことと素敵に生きることのバランス（Work Life Balance）の視点でレジャーや観光を学修する。日本人初のレジャー学博士を取得した教員を初め、旅行会社で国内外の旅行商品の企画を担当したプロフェッショナルな教授陣のもと、レジャーと観光をセットで学びながら、レジャー・観光産業における企画力、マネジメント力、ホスピタリティ力、分析力を身に付けてもらうことをコースの教育目標に置いている。また本コースでは、インターンシップや資格関連科目と組み合わせて履修することにより、より実践的な学修を行うことができる。なお、さらに深くレジャー学・観光学を

学ぶことを希望する学生には、東海大学観光学部への編入する制度も設けてある。

スポーツマネジメントコース

スポーツは、健康や生きる喜びと深く関連する大切な文化であり、参加者も種目も大会も実に多種多様である。スポーツへの認識と関心が高まる中、特にスポーツの表舞台を支える人材の育成は急務となっている。本コースでは、スポーツ大会の企画や運営、施設や用具の管理、選手・チームの分析など、スポーツの世界に関する様々な知識と技術を学修し、大会や選手・チームのマネジメントや分析力、各種スポーツにおける救急処置や事故予防の技術、また運動生理学を基盤としたスポーツや健康を科学的に検証する能力など、スポーツに関する力を総合的に身に付けさせる学修を行っている。本コースでの学修後は、スポーツ施設やクラブへの就職やさらに学びを深めたい学生には東海大学体育学部（湘南校舎）、総合経営学部（熊本校舎）、国際文化学部（札幌校舎）への編入する制度もある。

２）カリキュラム

a. 開講科目（学科専門科目）一覧

学科専門科目（2013年度生）

科目の種別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター 開講はセメスター単位。数字は 1週あたりの時間数。集中授業の場合は集」と記載）				教員配置 兼担非常勤には※」マーク）	受講者数 セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定）	e-ﾗｰﾆﾝｸﾞ	備考
					1	2	3	4				
国際共通	国際文化論	講義	×	2		2			専任	28		
	異文化コミュニケーション論	講義	×	2			2		専任			
	地域文化圏研究（アメリカ）	講義	×	2			2		専任			
	地域文化圏研究（ヨーロッパ）	講義	×	2				2	専任			
	地域文化圏研究（アジアA）	講義	×	2			2		専任			
	地域文化圏研究（アジアB）	講義	×	2			2		専任			
	日本歴史地理研究	講義	×	2	2				専任	33		
	世界歴史地理研究	講義	×	2		2			専任	23		
レジャー&ツーリズム	レジャー&ツーリズム概論I	講義	×	2		2			専任	32		
	レジャー&ツーリズム概論II	講義	×	2			2		専任			
	レジャー&ツーリズム論A	講義	×	2			2		専任			
	レジャー&ツーリズム論B	講義	×	2			2		専任			
	レジャー&ツーリズム論C	講義	×	2				2	専任			
	レジャー&ツーリズム論D	講義	×	2				2	専任			
	レジャー&ツーリズム演習	演習	×	2				2	専任			
スポーツマネジメント	スポーツマネジメント概論	講義	×	2		2			専任	19		
	スポーツマネジメント論A	講義	×	2		2			専任	21		
	スポーツマネジメント論B	講義	×	2			2		専任			
	スポーツマネジメント実習A	実習	×	1	2				専任	28		
	スポーツマネジメント実習B	実習	×	1		2			専任	17		
	スポーツマネジメント実習C	実習	×	1			2		専任			
	スポーツマネジメント実習D	実習	×	1				2	専任			
	スポーツ・健康科学論	講義	×	2			2		専任			
	スポーツ・健康科学論実習	実習	×	1				2	専任			
英語・韓国語・中国語	英語コミュニケーションI	講義	×	2	4				専任	38		
	英語コミュニケーションII	講義	×	2		4			専任	16		
	英語コミュニケーションIII	講義	×	2			4		専任			
	英語コミュニケーションIV	講義	×	2				4	専任			
	韓国語コミュニケーションI	講義	×	2	4				専任	34		
	韓国語コミュニケーションII	講義	×	2		4			専任	27		
	韓国語コミュニケーションIII	講義	×	2			4		専任			
	韓国語コミュニケーションIV	講義	×	2				4	専任			
	中国語コミュニケーションI	講義	×	2	4				専任	21		
	中国語コミュニケーションII	講義	×	2		4			専任	24		
	中国語コミュニケーションIII	講義	×	2			4		専任			
	中国語コミュニケーションIV	講義	×	2				4	専任			
プロジェクト研究	プロジェクト研究I	演習	○	1		2			専任	54		3単位必修
	プロジェクト研究II	演習	○	1			2		専任			
	プロジェクト研究III	演習	○	1				2	専任			

学科専門科目（2012 年度生）

科目の種別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター 開講はセメスター単位。数字は 1週あたりの時間数。集中授業の場合は集」と記載）				教員配置 兼担非常勤には※」マーク）	受講者数 セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定）	e-ﾗｰﾆﾝｸﾞ	備考
					1	2	3	4				
国際共通	国際文化論	講義	×	2		2			専任	28		
	異文化コミュニケーション論	講義	×	2			2		専任	52		
	地域文化圏研究（アメリカ）	講義	×	2			2		専任	13		
	地域文化圏研究（ヨーロッパ）	講義	×	2				2	専任	16		
	地域文化圏研究（アジアＡ）	講義	×	2			2		専任	20		
	地域文化圏研究（アジアＢ）	講義	×	2			2		専任	33		
	日本歴史地理研究	講義	×	2	2				専任	24		
	世界歴史地理研究	講義	×	2		2			専任	19		
レジャー＆ツーリズム	レジャー＆ツーリズム概論I	講義	×	2		2			非常勤※	46		
	レジャー＆ツーリズム概論II	講義	×	2			2		専任	51		
	レジャー＆ツーリズム論Ａ	講義	×	2			2		専任	42		
	レジャー＆ツーリズム論Ｂ	講義	×	2			2		専任	47		
	レジャー＆ツーリズム論Ｃ	講義	×	2				2	専任	15		
	レジャー＆ツーリズム論Ｄ	講義	×	2				2	専任	15		
	レジャー＆ツーリズム演習	演習	×	2				2	専任	27		
スポーツマネジメント	スポーツマネジメント概論	講義	×	2		2			専任	21		
	スポーツマネジメント論Ａ	講義	×	2		2			専任	18		
	スポーツマネジメント論Ｂ	講義	×	2			2		専任	18		
	スポーツマネジメント実習Ａ	実習	×	1	2				専任	27		
	スポーツマネジメント実習Ｂ	実習	×	1		2			専任	24		
	スポーツマネジメント実習Ｃ	実習	×	1			2		専任	10		
	スポーツマネジメント実習Ｄ	実習	×	1				2	専任	6		
	スポーツ・健康科学論	講義	×	2			2		専任	29		
	スポーツ・健康科学論実習	実習	×	1				2	専任	10		
英語・韓国語・中国語	英語コミュニケーションI	講義	×	2	4				専任	35		
	英語コミュニケーションII	講義	×	2		4			専任	25		
	英語コミュニケーションIII	講義	×	2			4		専任	18		
	英語コミュニケーションIV	講義	×	2				4	専任	20		
	韓国語コミュニケーションI	講義	×	2	4				専任	38		
	韓国語コミュニケーションII	講義	×	2		4			専任	21		
	韓国語コミュニケーションIII	講義	×	2			4		専任	10		
	韓国語コミュニケーションIV	講義	×	2				4	専任	14		
	中国語コミュニケーションI	講義	×	2	4				専任	42		
	中国語コミュニケーションII	講義	×	2		4			専任	26		
	中国語コミュニケーションIII	講義	×	2			4		専任	22		
	中国語コミュニケーションIV	講義	×	2				4	専任	23		
プロジェクト研究	プロジェクト研究I	演習	○	1		2			専任	54		3単位必修
	プロジェクト研究II	演習	○	1			2		専任	46		
	プロジェクト研究III	演習	○	1				2	専任	49		

b．履修可能科目および卒業要件について

国際文化学科に所属する学生は、国際文化学科の学科専門科目のほか、項目（１）で挙げた両学科共通科目を履修できる。また、情報処理学科の学科専門科目についても、原則として履修でき、最大で 20 単位まで卒業要件として認められる。しかし、１・２セメスターの学生が、３・４セメスターの科目を受講することは原則として認めていない。

卒業要件は、両学科共通科目および学科専門科目に設定された必修科目（必選別に○マークのある科目）に全て合格し、かつ、選択必修科目（必選別に●マークのある科目）の条件を満たした上で、合計で 62 単位以上の単位を取得することである。

３）自己点検・評価

大学全入時代を迎え、学力の低下や多様な学生の高等教育機関への入学が取りざたされ、また学生の

学びたい分野やキャリアに対する志向の変化に対応すべく、本学としても数年おきにカリキュラムを改定し、より良い学びの提供にこれまで努めてきた。今年度は“「生きる」を考え、「働く」を本気で学ぶ”という本学の教育方針のもと、新たなカリキュラムをスタートすることとなった。本カリキュラムは2013年度に完成することになるが、2012年度の時点での自己点検と評価を以下にまとめる。

まず、語学（英語・韓国語・中国語）についてであるが、語学教育の場合、複数教員による少人数の習熟度別クラスによる授業運営が理想である。現在これを達成しているのは英語のみである。昨今、韓国語、中国語ともに人気が高く、受講者も多いことから、現在、所定のクラス人数を超えた場合は、別クラスの開講が義務付けられているが、次年度からは英語と同様に複数教員による授業運営が早急に望まれるところである。

次に、学科専門科目であるが、総合科目や共通基礎、外国語といった両学科共通科目の多くを１年次におき、基本的に教養科目を１年次開講、専門科目を１年次後半から２年次開講となっている。これは基礎的な科目をしっかり１年次に学修してから専門科目に進むというコンセプトでカリキュラムが組まれた結果であるが、早期から専門科目を学びたい学生にとっては、やや不満が生じる開講時期となった。特にレジャー＆ツーリズムコースの専門科目は開講時期が２年次にほとんど集中しており、１年次から希望する学生が受けられないカリキュラムとなっている。また専門科目の多くの科目名をシステマティックに統一したことから、学修する科目内容が学生に分かりづらい点も指摘されている。2013年度のカリキュラム完成年度を待って、今一度、専門科目の開講時期については検討する必要がある。

最後に、補助科目（キャリア教育、語学資格、旅行資格、IT資格、キャリア資格）について検証したい。補助科目は２年次でも受講できる配慮から、そのほとんどが１年次に開講され、随意科目として開講されている。卒業単位にカウントされない随意科目のため、当然インセンティブの高い学生が受講してくる結果となったが、２年次では１度履修した学生は履修出来ないため、現在の方式では継続性のない開講方式になりかねない点が危惧されている。今後の是正の検討が必要である。

カリキュラムに関しては、学科及び教務委員会、大学評価委員会と連動して常時その問題点・改善点について検証と分析を継続させながら、次年度に向けてより良いカリキュラムを提供できるよう努力していきたい。

（４）補助科目

１）教育方針・構成（カリキュラムポリシー）

高等教育機関として、すぐれた教養と幅広い視野を育成する両学科共通科目、各学科の専門的な知識とスキルを修得する専門科目の充実は当然である。しかし、高等教育機関の中でも社会のニーズに即した実際的な専門職業に重きを置く短期大学では、キャリア支援科目や資格支援科目も重要な位置づけとなる。ここでは、両学科共通科目あるいは学科専門科目との関連性を維持しつつ、キャリア支援や資格支援をより一層充実させる目的で、補助科目として設定し、単位についても随意科目として柔軟に対応できる体制にしている。

２）カリキュラム

補助科目（2013年度生）

科目の種別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター 開講はセメスター単位。数字は1週あたりの時間数。集中授業の場合は集」と記載）				教員配置 兼担非常勤には※」マーク）	受講者数 セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定）	e-ﾗｰﾆﾝｸﾞ	備考
					1	2	3	4				
キャリア教育	ディベート基礎	講義	※	2		2			専任	0		
	社会総合	講義	※	2	2				専任	2		
	国際・時事研究	講義	※	2		2			専任	6		
	数学基礎	講義	※	2	2				専任	11		
	英語基礎	講義	※	2		2			専任	2		
	地理歴史基礎	講義	※	2	2				専任	2		
	キャリア研究Ａ	講義	※	2			2		専任			
	キャリア研究Ｂ	講義	※	2			2		専任			
	日本語コミュニケーションI	講義	※	1	2				専任	2		
	日本語コミュニケーションII	講義	※	1		2			非常勤	3		
	企業実習	実習	※	2		集			専任	9		
語学資格	実用英語Ａ	講義	※	1	2				専任	10		
	実用英語Ｂ	講義	※	1		2			専任	17		
	ＴＯＥＩＣ・Ａ	講義	※	1	2				専任	20		
	ＴＯＥＩＣ・Ｂ	講義	※	1		2			専任	1		
	実用韓国語Ａ	講義	※	1		2			非常勤	20		
	実用韓国語Ｂ	講義	※	1			2		専任			
	実用中国語Ａ	講義	※	1		2			専任	14		
	実用中国語Ｂ	講義	※	1			2		専任			
旅行資格	旅行業務取扱管理者Ａ	講義	※	2	2				専任	16		
	旅行業務取扱管理者Ｂ	講義	※	2	2				専任	16		
ＩＴ資格	ＰＣ文書作成Ａ	講義	※	2	2				専任	33		
	ＰＣ文書作成Ｂ	講義	※	2		2			専任	12		
	ＰＣデータ活用Ａ	講義	※	2		2			専任	15		
	ＰＣデータ活用Ｂ	講義	※	2			2		専任			
	情報処理技術者Ａ	講義	※	2	2				専任	16		
	情報処理技術者Ｂ	講義	※	2	集				専任	16		
	情報処理技術者Ｃ	講義	※	2		2			専任	10		
キャリア資格	秘書実務Ａ	講義	※	2	2	2			専任	14		
	秘書実務Ｂ	講義	※	2	2	2			専任	3		
	簿記Ａ	講義	※	2	2				専任	10		
	簿記Ｂ	講義	※	2		2			専任	3		
	医療事務I	講義	※	2	2				非常勤	8		
	医療事務II	講義	※	4		4			非常勤	5		

補助科目（2012年度生）

科目の種別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター 開講はセメスター単位。数字は 1週あたりの時間数。集中授業の場合は集」と記載）				教員配置 兼担非常勤には※」マーク）	受講者数 セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定）	e-ﾗｰﾆﾝｸﾞ	備考
					1	2	3	4				
キャリア教育	ディベート基礎	講義	※	2		2			専任	0		
	社会総合	講義	※	2	2				専任	0		
	国際・時事研究	講義	※	2		2			専任	10		
	数学基礎	講義	※	2	2				専任	1		
	英語基礎	講義	※	2		2			専任	2		
	地理歴史基礎	講義	※	2	2				専任	5		
	キャリア研究Ａ	講義	※	2			2		専任	36		
	キャリア研究Ｂ	講義	※	2			2		専任	19		
	日本語コミュニケーションI	講義	※	1	2				専任	1		
	日本語コミュニケーションII	講義	※	1		2			非常勤	3		
	企業実習	実習	※	2		集			専任	3		
語学資格	実用英語Ａ	講義	※	1	2				専任	8		
	実用英語Ｂ	講義	※	1		2			専任	11		
	ＴＯＥＩＣ・Ａ	講義	※	1	2				専任	14		
	ＴＯＥＩＣ・Ｂ	講義	※	1		2			専任	3		
	実用韓国語Ａ	講義	※	1		2			専任	21		
	実用韓国語Ｂ	講義	※	1			2		非常勤	6		
	実用中国語Ａ	講義	※	1		2			専任	7		
	実用中国語Ｂ	講義	※	1			2		専任	4		
旅行資格	旅行業務取扱管理者Ａ	講義	※	2	2				専任	9		
	旅行業務取扱管理者Ｂ	講義	※	2	2				専任	11		
ＩＴ資格	ＰＣ文書作成Ａ	講義	※	2	2				専任	18		
	ＰＣ文書作成Ｂ	講義	※	2		2			専任	11		
	ＰＣデータ活用Ａ	講義	※	2		2			専任	10		
	ＰＣデータ活用Ｂ	講義	※	2			2		専任	8		
	情報処理技術者Ａ	講義	※	2	2				専任	6		
	情報処理技術者Ｂ	講義	※	2	集				専任	3		
	情報処理技術者Ｃ	講義	※	2		2			専任	6		
キャリア資格	秘書実務Ａ	講義	※	2	2	2			専任	4		
	秘書実務Ｂ	講義	※	2	2	2			専任	10		
	簿記Ａ	講義	※	2	2				専任	13		
	簿記Ｂ	講義	※	2		2			専任	9		
	医療事務I	講義	※	2	2				非常勤	5		
	医療事務II	講義	※	4		4			非常勤	3		

３）自己点検・評価

就職支援科目や資格取得関連科目を「補助科目」に一括化し、卒業単位には含まれない「随意」科目として、他の科目群（「両学科共通科目」「学科専門科目」）とは差別化したカリキュラムを作成している。その目的は、２年後の卒業に向け、学生一人ひとりが自ら自覚的に目標を設定し、その達成のために必要とする科目を自らの責任のもとに選択することを通して、学生の主体性を育成し、自立を促そうという点にあった。しかし、確かに、資格取得を中心とする幾つかの科目では、モチベーションの高い学生が履修することで教育効果は上がったが、キャリア支援を目的として科目では、履修者の数が少ないだけでなく、出席率の低下を招く結果となっており、期待された効果は十分には得られていない。両学科共通の基礎科目群、学科専門科目から独立させた補助科目群として位置づけたため、卒業単位に含まれる科目との有機的な連携が希薄となり、当初の目的を十分に遂行できない状況が見受けられる。短期大学においては、２年間という短期間で就職等の出口に向けて準備をしなければならないことから、就業意識の涵養、職業観の育成、そして就職活動で少しでも優位に立つために資格取得は重要である。その点で、一括したプログラムの作成は、確かに学生を意識化させる点では有効であったと考える。しかし、今年度の結果を踏まえ、随意科目という設定も含めて早急の改善を行い、学生にとってより効果的かつ有意義なカリキュラム構成を行う必要がある。

（５）学年暦

２０１３年	４月	３日（水）	入学式 （１３時）
		４日（木）	春学期ガイダンス
		５日（金）	
		６日（土）	
		８日（月）	春学期授業開始
	７月	１６日（火）	月曜授業充当日
		２４日（水）	金曜授業充当日
		２５日（木）	月曜授業充当日、春学期授業終了
		２６日（金）	春学期定期試験［追試験 7/31（水）、8/1（木）］
		２７日（土）	
		２９日（月）	
		３０日（火）	
	８月	２日（金）	夏期休暇、サマーセッション［～9/19（木）］
		上旬～中旬	韓国短期留学Ａ（予定）
		３０日（金）	短期大学（部）スポーツ大会［8/29（木）出発、8/31（土）帰福］
	９月	上旬～中旬	ハワイ短期留学（予定）
		２０日（金）	９月学位授与式、秋学期入学式
		２４日（火）	秋学期ガイダンス
		２５日（水）	秋学期授業開始
	１１月	１日（金）	建学祭準備　［11/1（金）］
		２日（土）	建学祭　　［11/2（土）、11/3（日）］
		３日（日）	建学記念式典［11/3（日）］
		４日（月）	建学祭片付け［11/4（月）］
	１２月	２０日（金）	冬期休暇前授業終了
		２１日（土）	冬期休暇［～1/5（日）］
２０１４年	１月	６日（月）	冬期休暇後授業再開
		１５日（水）	月曜授業充当日
		２３日（木）	月曜授業充当日
		２７日（月）	秋学期授業終了
		２８日（火）	プロジェクト発表会
		２９日（水）	秋学期定期試験［追試験 2/3（月）、2/4（火）］
		３０日（木）	
		３１日（金）	
	２月	１日（土）	
		５日（水）	ウィンターセッション［～3/19（水）］
		上旬～下旬	韓国短期留学Ｂ（予定）
		下旬	リーダース研修会（予定）
	３月	上旬～中旬	中国短期留学（予定）
		７日（金）	卒業ガイダンス
		２０日（木）	学位授与式・卒業記念パーティー

（６）時間割

2013 年 5 月 1 日現在

２０１３年度授業時間割　情報処理学科（Ｂ３生）第１セメスター

注1）（　）内の、記号は○：必修　●：選択必修　×：選択　※：随意、数字は単位数を表しています。

注2）担当教員名の上または左に表示された番号は「履修登録番号」です。

時限 / 曜日	１時限目 9:00～10:20	２時限目 10:30～11:50	３時限目 12:40～14:00	４時限目 14:10～15:30	５時限目 15:40～17:00	６時限目 17:10～18:30
月	情報リテラシーＡ（○1） 1211A 矢原、徳永 第1，2実習室	言葉と文化（●2） 1202A 真下 1305 社会総合（※2） 1244A 亀田 1303	情報基礎（×2） 0603A 矢原 ゼミ室2・3 中国語Ⅰ（●1） 9953B チョウ 1305	ＰＣ文書作成Ａ（※2） 1260A 矢原 第1実習室	秘書実務Ａ（※2） 1266A 赤井 1306 地理歴史基礎（※2） 1248A 亀田 1307	
火	英語Ⅰ（●1） 9483A 松本 2502	３カ国語初級（○2） 1210A 松本、林、チョウ、ウェア 2502 1307 1305 1303	観光とレジャー（●2） 1201A 藤本 1305	スポーツ理論及び実習Ａ（×1） 1208A 北濱、岡本、柏木 コモンホール 総合グラウンド テニスコート	簿記Ａ（※2） 1268A 佐竹 2501 数学基礎（※2） 1246A 宮川 1306	
水	英語Ⅰ（●1） 9483B　松本　2501 9483C　ウェア　1307	健康とスポーツ（●2） 1101A 北濱、岡本 1305 企業と社会（●2） 1203A 佐竹 2501	フレッシュマンゼミナール（○1） 1206F 真下、矢原、八尋、宮川 松本、亀田、北濱、岡本 2502	情報処理技術者Ａ（※2） 1264A 宮川 第4実習室 秘書実務Ｂ（※2） 1267A 赤井 1306	医療事務Ⅰ（※2） 1002A 山崎 1307	
木	韓国語Ⅰ（●1） 0716A 林　1305 李　1303	ＩＴ総合演習Ⅰ（×2） 1217A 八尋 第1実習室	情報とメディア（●2） 1204A 伊津、原田 2501	現代文明論Ⅰ(○2) 941DA 宮川、伊津、真下、岡本 2502	ＴＯＥＩＣ・Ａ（※1） 1253A ウェア 第2実習室 日本語コミュニケーション1（※1） 0122A 長谷川 1304	
金	中国語Ⅰ（●1） 9953A チョウ 1305	プロジェクト基礎（○2） 1205A 矢原、真下 ゼミ室2・3		旅行業務取扱管理者Ａ（※2） 1259A 横大路、柏木 1307	実用英語Ａ（※1） 1251A 松本 1304 旅行業務取扱管理者Ｂ（※2） 1294A 横大路、柏木 1307	

集中			
	情報処理技術者Ｂ	（※2）	1265Ａ　宮川
	ハワイ短期留学	（×2）	ウェア
	韓国短期留学Ａ	（×2）	林
	海外短期留学	（×4）	東海大学派遣留学制度他

■履修登録番号および教室の表示がない科目については、後日掲示等で指示します。

■実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

２０１３年度授業時間割　国際文化学科（Ｂ３生）第１セメスター

注1）（　）内の、記号は○：必修　●：選択必修　×：選択　※：随意、数字は単位数を表しています。

注2）担当教員名の上または左に表示された番号は「履修登録番号」です。

曜日＼時限	1時限目 9:00～10:20	2時限目 10:30～11:50	3時限目 12:40～14:00	4時限目 14:10～15:30	5時限目 15:40～17:00	6時限目 17:10～18:30
月	情報リテラシーＡ（○1） 1211A 矢原、徳永 第1，2実習室	言葉と文化（●2） 1202A 真下 1305	スポーツマネジメント実習Ａ（×1） 1287A 北濱、他 コホンホール 総合グラウンド他	日本歴史地理研究（×2） 1275A 亀田 1305	秘書実務Ａ（※2） 1266A 赤井 1306	
		社会総合（※2） 1244A 亀田 1303	中国語Ⅰ（●1） 9953B チョウ 1305	ＰＣ文書作成Ａ（※2） 1260A 矢原 第1実習室	地理歴史基礎（※2） 1248A 亀田 1307	
火	韓国語コミュニケーションⅠ（×2） 0831A 林　1305 李　1307 〔週2コマ【木2】開講〕	３カ国語初級（○2） 1210A 松本、林、チョウ、ウェア 2502 1307 1305 1303	英語コミュニケーションⅠ（×2） 0031A ウェア　1303 玉置　1307 〔週2コマ【木3】開講〕	スポーツ理論及び実習Ａ（×1） 1208A 北濱、岡本、柏木 コモンホール 総合グラウンド テニスコート	簿記Ａ（※2） 1268A 佐竹 2501	
	英語Ⅰ（●1） 9483A 松本 2502		観光とレジャー（●2） 1201A 藤本 1305		数学基礎（※2） 1246A 宮川 1306	
水	英語Ⅰ（●1） 9483B　松本　2501 9483C　ウェア　1307	健康とスポーツ（●2） 1101A 北濱、岡本 1305	フレッシュマンゼミナール（○1） 1206F 真下、矢原、八尋、宮川 松本、亀田、北濱、岡本 2502	中国語コミュニケーションⅠ（×2） 9958A チョウ 第1実習室 〔週2コマ【金4】開講〕	医療事務Ⅰ（※2） 1002A 山崎 1307	
		企業と社会（●2） 1203A 佐竹 2501		情報処理技術者Ａ（※2） 1264A 宮川 第4実習室		
				秘書実務Ｂ（※2） 1267A 赤井 1306		
木	韓国語Ⅰ（●1） 0716A 林　1305 李　1303	韓国語コミュニケーションⅠ（×2） 0831A 林　1305 李　1307 〔週2コマ【火1】開講〕	英語コミュニケーションⅠ（×2） 0031A ウェア　1303 玉置　1307 〔週2コマ【火3】開講〕	現代文明論Ⅰ(○2) 941DA 宮川、伊津、真下、岡本 2502	ＴＯＥＩＣ・Ａ（※1） 1253A ウェア 第2実習室	
			情報とメディア（●2） 1204A 伊津、原田 2501		日本語コミュニケーションⅠ（※1） 0122A 長谷川 1304	
金	中国語Ⅰ（●1） 9953A チョウ 1305	プロジェクト基礎（○2） 1205A 矢原、真下 ゼミ室2・3		中国語コミュニケーションⅠ（×2） 9958A チョウ 第1実習室 〔週2コマ【水4】開講〕	実用英語Ａ（※1） 1251A 松本 1304	
				旅行業務取扱管理者Ａ（※2） 1259A 横大路、柏木 1307	旅行業務取扱管理者Ｂ（※2） 1294A 横大路、柏木 1307	

集中			
	情報処理技術者Ｂ	（※2）	1265Ａ　宮川
	ハワイ短期留学	（×2）	ウェア
	韓国短期留学Ａ	（×2）	林
	海外短期留学	（×4）	東海大学派遣留学制度他

■履修登録番号および教室の表示がない科目については、後日掲示等で指示します。

■実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

２０１３年度授業時間割　情報処理学科（Ｂ３生）第２セメスター

注1）（　）内の、記号は○：必修　●：選択必修　×：選択　※：随意、数字は単位数を表しています。

注2）担当教員名の上または左に表示された番号は「履修登録番号」です。

時限 / 曜日	1時限目 9:00～10:20	2時限目 10:30～11:50	3時限目 12:40～14:00	4時限目 14:10～15:30	5時限目 15:40～17:00	6時限目 17:10～18:30
月	英語II（●1） 9486J　松本　1304 9486L　ウェア　1307	情報リテラシーB（○1） 1212J 矢原、徳永 第1，2実習室	オフィスデータ活用実習AI（×1） 1231J 矢原 第2実習室 英語II（●1） 9486K 松本 1304	メディア基礎演習B（×2） 1220J 矢原 第2実習室	ＰＣデータ活用Ａ（※2） 1262J 八尋 第1実習室 実用英語Ｂ（※1） 1252J 松本 1304	
火	中国語II（●1） 9954J チョウ 1305	マネジメント基礎（○2） 1213J 佐竹 2502	ＩＴシステム論Ａ（×2） 1222J 宮川 1307 言葉と文化（●2） 1202J 真下 1305 実用韓国語Ａ（※1） 1255J 李 1306	スポーツ理論及び実習B（×1） 1209J 北濱、岡本、柏木 コモンホール 総合グラウンド テニスコート	情報処理技術者Ｃ（※2） 1293J 宮川 第4実習室 簿記Ｂ（※2） 1269J 佐竹 2501	
水	コミュニケーション基礎（○2） 1214J 矢原他 2502	健康とスポーツ（●2） 1101J 北濱、岡本 2502 企業と社会（●2） 1203J 佐竹 2501	キャリアプラニング（○2） 1207J 矢原、神山、真下 宮川、亀田、柏木 2502 2501 第1実習室 1306 1307	医療事務II（※4） 1003J 山崎 1307 秘書実務Ａ（※2） 1266J 赤井 1306 実用中国語Ａ（※1） 1257J チョウ 1305		
木	メディア基礎演習A（×2） 1219J 八尋 第1実習室	韓国語II（●1） 0717J 林　1305 李　1303	観光とレジャー（●2） 1201J 藤本 1307 情報とメディア（●2） 1204J 伊津、原田 2501	現代文明論II(○2) 942DJ 宮川、伊津、真下、岡本 2502	ＰＣ文書作成Ｂ（※2） 1261J 矢原 第2実習室 国際・時事研究（※2） 1245J 真下 1307 日本語コミュニケーションII（※1） 0225J 長谷川 1306	
金	先端ビジネス論Ａ（×2） 1235J 宮川 1307 英語基礎（※2） 1247J 松本 1305	プロジェクト研究I（○1） 1240A　矢原、赤井 1240C　八尋 1240D　宮川、原田 各研究室	ＩＴ総合演習II（×2） 1218J 八尋 第1実習室	メディア基礎演習C（×2） 1221J 伊津、原田 第2実習室	ディベート基礎（※2） 1243J 真下 1302 秘書実務Ｂ（※2） 1267J 赤井 1306 ＴＯＥＩＣ・Ｂ（※1） 1254J ウェア 第2実習室	

集中		
	企業実習　（※2）	矢原、神山、藤本
	韓国短期留学Ｂ　（×2）	林
	中国短期留学　（×2）	チョウ
	海外短期留学　（×4）	東海大学派遣留学制度他
	海外中期留学　（×6）	東海大学派遣留学制度他
	海外長期留学　（×8）	東海大学派遣留学制度他
	海外研修（航海）（×4）	

２０１３年度授業時間割　国際文化学科（Ｂ３生）第２セメスター

注1）（　）内の、記号は○：必修　●：選択必修　×：選択　※：随意、数字は単位数を表しています。

注2）担当教員名の上または左に表示された番号は「履修登録番号」です。

曜日＼時限	1時限目 9:00～10:20	2時限目 10:30～11:50	3時限目 12:40～14:00	4時限目 14:10～15:30	5時限目 15:40～17:00	6時限目 17:10～18:30
月	英語II（●1） 9486J　松本　1304 9486L　ウェア　1307	情報リテラシーB（○1） 1212J 矢原、徳永 第1，2実習室	スポーツマネジメント実習B（×1） 1288J 北濱、岡本他 コモンホール 英語II（●1） 9486K 松本 1304	プロジェクト研究I（○1） 1240P 藤本、柏木 研究室	PCデータ活用A（※2） 1262J 八尋 第1実習室 実用英語B（※1） 1252J 松本 1304	
火	スポーツマネジメント論A（×2） 1285J 北濱、岡本 2501 中国語II（●1） 9954J チョウ 1305	マネジメント基礎（○2） 1213J 佐竹 2502	英語コミュニケーションII（×2） 0032J ウェア　1303 玉置　1302 〔週2コマ【木3】開講〕 言葉と文化（●2） 1202J 真下 1305 実用韓国語A（※1） 1255J 李 1306	スポーツ理論及び実習B（×1） 1209J 北濱、岡本、柏木 コモンホール 総合グラウンド テニスコート	韓国語コミュニケーションII（×2） 0832J 林　1305 李　1307 〔週2コマ【木1】開講〕 情報処理技術者C（※2） 1293J 宮川 第4実習室 簿記B（※2） 1269J 佐竹 2501	
水	コミュニケーション基礎（○2） 1214J 矢原他 2502	中国語コミュニケーションII（×2） 9959J チョウ 第2実習室 〔週2コマ【金1】開講〕 健康とスポーツ（●2） 1101J 北濱、岡本 2502 企業と社会（●2） 1203J 佐竹 2501	キャリアプランニング（○2） 1207J 矢原、神山、真下 宮川、亀田、柏木 2502 2501 第1実習室 1306 1307	医療事務II（※4） 1003J 山崎 1307 秘書実務A（※2） 1266J 赤井 1306 実用中国語A（※1） 1257J チョウ 1305		
木	韓国語コミュニケーションII（×2） 0832J 林　1305 李　1307 〔週2コマ【火5】開講〕 レジャー&ツーリズム概論I（×2） 1277J 藤本、柏木 2501	国際文化論（×2） 942EA 真下 1307 韓国語II（●1） 0717J 林　1305 李　1303	観光とレジャー（●2） 1201J 藤本 1307 情報とメディア（●2） 1204J 伊津、原田 2501 英語コミュニケーションII（×2） 0032J ウェア　1303 玉置　1302 〔週2コマ【火3】開講〕	現代文明論II（○2） 942DJ 宮川、伊津、真下、岡本 2502	PC文書作成B（※2） 1261J 矢原 第2実習室 国際・時事研究（※2） 1245J 真下 1307 日本語コミュニケーションII（※1） 0225J 長谷川 1306	
金	中国語コミュニケーションII（×2） 9959J チョウ 第2実習室 〔週2コマ【水2】開講〕 英語基礎（※2） 1247J 松本 1305	スポーツマネジメント概論（×2） 1284J 北濱、柏木 1307	世界歴史地理研究（×2） 1276J 亀田 1305	プロジェクト研究I（○1） 1240F　真下 1240K　ウェア、松本 1240H　林 1240J　チョウ 1240L　北濱、岡本 各研究室	ディベート基礎（※2） 1243J 真下 1302 秘書実務B（※2） 1267J 赤井 1306 TOEIC・B（※1） 1254J ウェア 第2実習室	

集中			
	企業実習	（※2）	矢原、神山、藤本
	韓国短期留学B	（×2）	林
	中国短期留学	（×2）	チョウ
	海外短期留学	（×4）	東海大学派遣留学制度他
	海外中期留学	（×6）	東海大学派遣留学制度他
	海外長期留学	（×8）	東海大学派遣留学制度他
	海外研修（航海）	（×4）	

■履修登録番号および教室の表示がない科目については、後日掲示等で指示します。

■実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

２０１３年度授業時間割　情報処理学科（Ｂ２生）第３セメスター

注1）（　）内の、記号は○：必修　　●：選択必修　　×：選択　、数字は単位数を表しています。

注2）担当教員名の上または左に表示された番号は「履修登録番号」です。

時限 / 曜日	1時限目 9:00～10:20	2時限目 10:30～11:50	3時限目 12:40～14:00	4時限目 14:10～15:30	5時限目 15:40～17:00	6時限目 17:10～18:30
月		オフィスデータ活用実習AII（×1） 1232A 矢原 第2実習室	メディアデザイン実習ＡＩ（×2） 1225A 八尋 第2実習室			
火	先端ビジネス論Ｂ（×2） 1236A 宮川 2501	実用韓国語Ｂ（※1） 1256A 李 1306	ＩＴシステム論Ｂ（×2） 1223A 八尋 第1実習室	オフィスデータ活用実習BI（×1） 1233A 宮川 第1実習室	実用中国語Ｂ（※1） 1258A チョウ 1305	
水	中国語III（●1） 9955A チョウ 1303	プロジェクト研究II（○1） 1241A　矢原、赤井 1241B　八尋 1241C　宮川、原田 各研究室	ディジタル広報（×2） 1229A 原田、伊津 第2実習室	ＩＴシステム論Ｃ（×2） 1224A 八尋 第2実習室		
木	英語III（●1） 9489A　松本　2501 9489B　ウェア　1307	ビジネス演習Ａ（×2） 1238A 矢原 第2実習室	ＰＣデータ活用Ｂ（※2） 1263A 八尋 第1実習室		キャリア研究Ａ（※2） 1249A 矢原、神山、佐竹 ゼミ室2・3 キャリア研究Ｂ（※2） 1250A 宮川、真下、亀田 1306、1307	
金	メディアデザイン実習ＢＩ（×2） 1227A 宮川 第4実習室		広報メディア（×2） 1230A 原田 第2実習室	韓国語III（●1） 1215A 林 1305		

集中	海外短期留学　（×4）	東海大学派遣留学制度他
	海外中期留学　（×6）	東海大学派遣留学制度他

■履修登録番号および教室の表示がない科目については、後日掲示等で指示します。

２０１３年度授業時間割　国際文化学科（Ｂ２生）第３セメスター

注1）（　）内の、記号は○：必修　　●：選択必修　　×：選択　、数字は単位数を表しています。

注2）担当教員名の上または左に表示された番号は「履修登録番号」です。

時限 / 曜日	1時限目 9:00～10:20	2時限目 10:30～11:50	3時限目 12:40～14:00	4時限目 14:10～15:30	5時限目 15:40～17:00	6時限目 17:10～18:30
月	スポーツマネジメント実習C（×1） 1289A 岡本、北濱 1307 スポーツマネジメント実習室	スポーツ・健康科学論（×2） 1291A 岡本 1307				
火	レジャー&ツーリズム概論II（×2） 1278A 藤本、柏木 1303	実用韓国語Ｂ（※1） 1256A 李 1306	異文化コミュニケーション論（×2） 1270A 神山 2501	英語コミュニケーションIII（×2） 1133A ウェア　1303 玉置　1307 〔週2コマ【木4】開講〕 地域文化圏研究（アジアA）（×2） 1273A 林 1305	実用中国語Ｂ（※1） 1258A チョウ 1305	
水	中国語III（●1） 9955A チョウ 1303	中国語コミュニケーションIII（×2） 9960A チョウ 第2実習室 〔週2コマ【金2】開講〕	地域文化圏研究（アメリカ）（×2） 1271A ウェア 1305 韓国語コミュニケーションIII（×2） 0911A 林 1303 〔週2コマ【金1】開講〕	レジャー&ツーリズム論B（×2） 1280A 藤本、柏木 1305		
木	英語III（●1） 9489A　松本　2501 9489B　ウェア　1307	地域文化圏研究（アジアB）（×2） 1274A チョウ 第4実習室	ＰＣデータ活用Ｂ（※2） 1263A 八尋 第1実習室	英語コミュニケーションIII（×2） 1133A ウェア　1303 玉置　1302 〔週2コマ【火4】開講〕	キャリア研究Ａ（※2） 1249A 矢原、神山、佐竹 ゼミ室2・3 キャリア研究Ｂ（※2） 1250A 宮川、真下、亀田 1306、1307	
金	レジャー&ツーリズム論A（×2） 1279A 柏木 1307 韓国語コミュニケーションIII（×2） 0911A 林 1303 〔週2コマ【水3】開講〕	中国語コミュニケーションIII（×2） 9960A チョウ 第2実習室 〔週2コマ【水2】開講〕 スポーツマネジメント論B（×2） 1286A 北濱、岡本、平野 2501	プロジェクト研究II（○1） 1241F　真下 1241I　藤本、柏木 1241K　ウェア、松本 1241H　林 1241J　チョウ 1241L　北濱、岡本 各研究室	韓国語III（●1） 1215A 林 1305		

集中	海外短期留学　（×4）	東海大学派遣留学制度他
	海外中期留学　（×6）	東海大学派遣留学制度他

■履修登録番号および教室の表示がない科目については、後日掲示等で指示します。

２０１３年度授業時間割　情報処理学科（Ｂ２生）第４セメスター

注1）（　）内の、記号は○：必修　　●：選択必修　　×：選択　、数字は単位数を表しています。

注2）担当教員名の上または左に表示された番号は「履修登録番号」です。

時限 / 曜日	1時限目 9:00～10:20	2時限目 10:30～11:50	3時限目 12:40～14:00	4時限目 14:10～15:30	5時限目 15:40～17:00	6時限目 17:10～18:30
月			メディアデザイン実習ＡII（×2） 1226J 八尋 第1実習室			
火	英語IV（●1） 9492J 松本 1303	先端ビジネス論Ｃ（×2） 1237J 宮川 1307				
水		韓国語IV（●1） 1216J 林 1305	メディアデザイン実習ＢII（×2） 1228J 原田、伊津 第5実習室			
木	中国語IV（●1） 9956J チョウ 1303	プロジェクト研究III（○1） 1242A　矢原、赤井 1242B　八尋 1242C　宮川、原田 各研究室	オフィスデータ活用実習BII（×1） 1234J 宮川 第1実習室			
金			ビジネス演習Ｂ（×2） 1239J 赤井 1306			

集中	海外短期留学　（×4）	東海大学派遣留学制度他
	海外中期留学　（×6）	東海大学派遣留学制度他
	海外研修（航海）（×4）	

■履修登録番号および教室の表示がない科目については、後日掲示等で指示します。

２０１３年度授業時間割　国際文化学科（Ｂ２生）第４セメスター

注1）（　）内の、記号は○：必修　●：選択必修　×：選択　、数字は単位数を表しています。

注2）担当教員名の上または左に表示された番号は「履修登録番号」です。

時限 / 曜日	1時限目 9:00～10:20	2時限目 10:30～11:50	3時限目 12:40～14:00	4時限目 14:10～15:30	5時限目 15:40～17:00	6時限目 17:10～18:30
月	スポーツマネジメント実習D（×1） 1290J 北濱、柏木 2501 スポーツマネジメント実習室	プロジェクト研究III（○1） 1242J 藤本、柏木 研究室	レジャー&ツーリズム演習（×2） 1283J 藤本、柏木 1305			
火	英語IV（●1） 9492J 松本 1303	韓国語コミュニケーションIV（×2） 0912J 林 1305 〔週2コマ【木3】開講〕	中国語コミュニケーションIV（×2） 9957J チョウ 第2実習室 〔週2コマ【金2】開講〕	英語コミュニケーションIV（×2） 1134J ウェア　1303 玉置　1302 〔週2コマ【木4】開講〕	レジャー&ツーリズム論D（×2） 1282J 横大路 1303	
水		韓国語IV（●1） 1216J 林 1305		地域文化圏研究（ヨーロッパ）（×2） 1272J 真下 1303		
木	中国語IV（●1） 9956J チョウ 1303		韓国語コミュニケーションIV（×2） 0912J 林 1305 〔週2コマ【火2】開講〕	英語コミュニケーションIV（×2） 1134J ウェア　1303 玉置　1302 〔週2コマ【火4】開講〕	レジャー&ツーリズム論C（×2） 1281J 田中丸 1305	
金	スポーツ・健康科学論実習（×1） 1292J 岡本 スポーツマネジメント実習室	中国語コミュニケーションIV（×2） 9957J チョウ 第2実習室 〔週2コマ【火3】開講〕	プロジェクト研究III（○1） 1242F　真下 1242K　ウェア、松本 1242H　林 1242J　チョウ 1242L　北濱、岡本 各研究室			

集中	海外短期留学	（×4）	東海大学派遣留学制度他
	海外中期留学	（×6）	東海大学派遣留学制度他
	海外研修（航海）	（×4）	

■履修登録番号および教室の表示がない科目については、後日掲示等で指示します。

■実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

（７）教科書

＜１年春学期＞				
科目名	担当教員	書　　名	出版社	売価
英語Ⅰ（火・1）	松本	English Upload 『コントラストで学ぶ大学英文法』	金星堂	1,900
英語Ⅰ（水・1）		Campus English 『学生生活を英語でマスター』	CENGAGE Learning	2,000
英語Ⅰ（水・1）	ウェア	Out Front student book (5th Edition)	English Education Press	2,100
		Out Front Audio CD (5th Edition)	English Education Press	480
中国語Ⅰ	チョウ	らくだ最新中国語	とうか書房	1,500
英語コミュニケーションⅠ	ウェア・玉置	Top Notch Fundamentals (2nd Edition)	Pearson Longman	2,910
中国語コミュニケーションⅠ	チョウ	らくだ最新中国語	とうか書房	1,500
実用英語Ａ	松本	7日間完成 英検　2級　予想問題ドリル 改訂新版	旺文社	1,200
ＴＯＥＩＣ・Ａ	ウェア	Very Easy TOEIC (2nd Edition)	Compass Media	2,400
旅行業務取扱管理者Ａ	横大路・柏木	2013旅行業務取扱管理者試験「国内短期完成」	エフィカス	2,100
旅行業務取扱管理者Ｂ	横大路・柏木	2013旅行業務取扱管理者試験　国内テーマ別問題集	エフィカス	2,200
情報処理技術者Ａ	宮川	平成24-25年度 ITパスポート 試験によくでる問題集 CBT対応	技術評論社	1,580
		平成25年度 ITパスポート合格教本 CBT対応	技術評論社	1,580
情報処理技術者Ｂ	宮川	平成24-25年度 ITパスポート 試験によくでる問題集 CBT対応	技術評論社	1,580
		平成25年度 ITパスポート合格教本 CBT対応	技術評論社	1,580
秘書実務Ａ	赤井	秘書検定　3級　実問題集　2013年度版	早稲田教育出版	1,100
秘書実務Ｂ	赤井	秘書検定　2級　実問題集　2013年度版	早稲田教育出版	1,200
簿記Ａ	佐竹	合格テキスト日商簿記　３級	TAC出版	2,000
医療事務Ⅰ	山崎	日本医療事務協会オリジナルテキスト　※		13,500

＜２年春学期＞				
科目名	担当教員	書　　名	出版社	売価
英語III	松本	Power-Up English (Intermediate) 総合英語パワーアップ－リスニングから リーディングまで ＜中級編＞	南雲堂	2,000
	ウェア	Face to Face: English for Today's Generation (2nd Edition)	マクミラン	2,100
韓国語コミュニケーションIII	林	完全マスターハングル文法	DHC	2,000
中国語III	チョウ	らくだ最新中国語	とうか書房	1,500
先端ビジネス論Ｂ	宮川	平成25年度 栢木先生の基本情報技術者教室	技術評論社	1,780
英語コミュニケーションIII	ウェア・玉置	Top Notch 1 (2nd Edition)	Pearson Longman	2,910
韓国語コミュニケーションIII	林	完全マスターハングル会話	DHC	2,000
中国語コミュニケーションIII	チョウ	中国成語故事	天津社会科学出版社	1,410
キャリア研究Ａ	神山・矢原・佐竹	短大生の就活編　※	ディスコ	840
実用中国語Ｂ	チョウ	中国成語故事	天津社会科学出版社	1,410

＜１年秋学期＞				
科目名	担当教員	書　　名	出版社	売価
キャリアプラニング	矢原・神山・真下・宮川・亀田・柏木	短大生の就活編　　(※)	(株) ディスコ	※840
英語II (月1・中級クラス)	松本	Campus English 『学生生活を英語でマスター』	CENGAGE	2,100
英語II (月3・初級クラス)		English Upload 『コントラストで学ぶ大学英文法』	金星堂	1,900
英語II	ウェア	Out Front student book (5th Edition)	English Education Press	2,100
中国語II	チョウ	らくだ最新中国語	とうか書房	1,500
ＩＴシステム論Ａ	宮川	平成25年度　イメージ&クレバー方式でよくわかる栢木先生の基本情報技術者教室	技術評論社	1,780
先端ビジネス論Ａ	宮川	平成25年度 ITパスポート合格教本 CBT対応	技術評論社	1,580
英語コミュニケーションII	ウェア・玉置	Top Notch Fundamentals (2nd Edition)	Pearson Longman	2,910
韓国語コミュニケーションII	林	初級から上級までよくわかる　完全マスターハングルリスニング	DHC	1,800
中国語コミュニケーションII	チョウ	らくだ最新中国語	とうか書房	1,500
国際・時事研究	真下	一般常識の完璧対策 2015年版	日経ＨＲ	1,200
英語基礎	松本	Fundamental English for College Students:Rules of Syntax	南雲堂	1,900
実用英語Ｂ	松本	7日間完成　英検2級予想問題ドリル(改訂新版)	旺文社	1,200
ＴＯＥＩＣ・Ｂ	ウェア	Starter TOEIC (3rd edition)	Compass Publishing	2,600
情報処理技術者Ｃ	宮川	平成24-25年度 ITパスポート 試験によくでる問題集 CBT対応	技術評論社	1,580
		平成25年度 ITパスポート合格教本 CBT対応	技術評論社	1,580
秘書実務Ａ	赤井	秘書検定3級　実問題集 2013年度版	早稲田教育出版	1,100
秘書実務Ｂ		秘書検定2級　実問題集　2013年度版	早稲田教育出版	1,200
簿記Ｂ	佐竹	合格テキスト日商簿記３級	TAC出版	2,000
医療事務II	山崎	日本医療事務協会オリジナルテキスト		13,500

＜２年秋学期＞				
科目名	担当教員	書　　名	出版社	売価
英語IV	松本	Power-Up English〈Internediate〉	南雲堂	2,000
中国語IV	チョウ	らくだ最新中国語	とうか書房	1,500
オフィスデータ活用実習ＢII	宮川	すぐわかる Access 2013　Windows 8/7対応	アスキー	1,680
先端ビジネス論Ｃ	宮川	平成25年度 イメージ&クレバー方式でよくわかる栢木先生の基本情報技術者教室	技術評論社	1,780
		情報セキュリティ読本 四訂版: IT時代の危機管理入門	実教出版	500
ビジネス演習Ｂ	赤井	図解　ビジネスマナーの基本ルール	成美堂出版	1,000
英語コミュニケーションIV	ウェア・玉置	Top Notch 1 (2nd Edition)	Pearson Longman	2,910
中国語コミュニケーションIV	チョウ	中国成語故事	天津社会科学出版社	1,410

２．教育の質の保証と改善に向けて

（１）ゼミナールと個別指導

短期大学での学修環境に早期に対応できない学生の増加に伴い、「フレッシュマンゼミナール」を開講している。また、本学では入学直後の学生を支援する目的で、学生 10 名程度につき１指導教員を配置した少人数指導体制を敷いている。

「フレッュマンゼミナール」では、科目の最初にゼミごとの履修指導や個別相談を実施すると共に、ニュースポーツを中心としたレクリエーションを行い、環境対応の早期問題解消と学生相互のコミュニケーションの構築をはかっている。次に「学ぶことの楽しさ・スキルを学ぶ」というテーマのもと、本学施設（図書館、PC 実習等）をどの様に学修に活かすのかをツアー形式で行い、続いて授業ノートの取り方、レポートの書き方を指導した。次に、２年間という短期間での教育を踏まえ、早期に自身の進路に関する意識を涵養する目的で、「未来を体験する」というテーマのもと、進路指導、アンケート、講演等を行った。また、それまでの集大成としてテーマに沿ったレポートを提出させ、各指導教員が添削し、個別にレポート指導を行った。その中で、特に優秀なレポートに対しては表彰を行い、学生のモチベーション向上に努めた。区切りの部分では個別面談を挟むなど、学生個々の状況把握に努めた。これらの活動を通して、初年次教育の目的の多くを達せられたと思っている。反省点としては、全体で活動する時間が多くなり、指導教員との信頼関係を構築する時間があまり取れなかったことにより、真の意味での学生相談になりきらなかったのではないかという点である。

また、本学では、学生一人ひとりの様々な情報を集約し、全ての教職員が共有するための Web システム「学生カルテ」を運用している。平成 11 年度から運用されている本システムは、本学専任教員によって開発され、以降、継続的な改善・改良が施され今日に至っている。この学生カルテによって、学生の個別情報の迅速かつ的確な把握と、教職員同士の情報の共有化が可能になったことで、個別指導の現場に、日々の学生の情報が直接反映され、「学生一人ひとりに一対一で向き合う」ことを目指す、本学のきめ細かい個別指導の基盤を構成している。しかし、「学生カルテ」への情報の書き込み量に関して、教職員間での格差が生じており、十分な情報を把握できない学生も出てきている。心身の問題も含め多種多様な問題を抱えた学生に関しては、その内容等から守秘義務の問題もあり、利用促進に関する学内の統一見解と書き込み情報の活用方法について再検討する必要性がある。

（２）ＦＤ活動

１）目的

本学は、多様性を増す学生一人ひとりに対応できる教育の実現による、初期高等教育そのものの質的変革を目指している。また、高等教育機関としての短期大学の存在意義が厳しく問われている現状において、本学が今後も生き残っていくためには、教育機関としての原点である教育能力の向上を第一に考えねばならない。これらの目標を実現するために、以下の２点を中心に活動を行う。

- リアルタイム授業評価の実施推進
- FD 研究会

２）リアルタイム授業評価の実施

本学は、多様性を増す学生一人ひとりに対応できる教育の実現による、初期高等教育そのものの質的変革を目指している。また、高等教育機関としての短期大学の存在意義が厳しく問われている現状において、本学が今後も生き残っていくためには、教育機関としての原点である教育能力の向上を第一に考えねばならない。

３）ＦＤ研究会の実施

＊第１回 FD 研究会

開催日：2013 年７月４日 15:30～16:30

テーマ：学生カルテ（SRMS）の活用法（初級編）

講師：八尋（FD 委員長）、北濱（FD 委員）

参加者：

概要：本学の教育システムの中枢である学生カルテ（SMRS）について、その概要・コンセプト・利用方法を理解してもらい、全般的な学生サポートに活用できるようにした。

＊ 第２回 FD 研究会
開催日：2013 年 7 月 30 日 14:00～15:30
テーマ：仲間の研究を知り、自己研鑽につなげる
講演者：松本、柏木、原田、岡本
参加者：教員（伊津、真下、八尋、赤井、神山、矢原、宮川、J.Ware、北濱、藤本、原田、柏木、松本）
職員（山本、岩重、芳賀、西村、香月、古川、福田）
以上 23 名
概要：本学もここ数年で教育陣のリフレッシュが行われ、お互いの研究内容をよく理解しないままで学校運営が行われていた。また、職員も教員の研究内容の詳細を知る機会がなかった。このため、学生指導における適切な指導が行えないなど、学生募集においても間違った情報を受験生に与えかねないなどの問題もあり、不適切な進路選択につながる可能性もあった。
これらを解消するため、各教員の研究内容を 10 分程度でプレゼンテーションしてもらう企画とした。

（３）e ラーニング

近年の少子化や短期大学をめぐる社会的要請の変化などにより、入学する学生の特徴は、年齢・国籍・学習経歴・基礎学力から、入学目的・希望進路に至るまで、多様化の一途を辿っている。このような状況において、教育の質と学生の満足度を高めるためには、個々の状況を的確に把握し、かつ、その状況に見合った対応を行う「個別教育」の実現が必要である。

本学では、個別教育の実現に向けて、下記に述べるような e ラーニングによる授業形態を導入し、{いつでも}{どこでも}{誰でも} 学ぶことのできる体制づくりを推進している。

１）取組み概要

本学では、(1)本学教員による独自のウェブ教材、(2)学生カルテ、(3)メンタリング、の３つを e ラーニング実現の中核要素とし、これらの有機的な結合によって、多様な個々の学生に対する教育効果の増進を図っている。具体的には、授業担当教員とのメンタリングによって得られた、学生の学修状況・希望進路・生活状況などの情報を学生カルテに蓄積し、教員間で共有する。この情報をもとに、教員は個々の学生の将来目標や能力に適する教材を開発・提示することや、その時点での学生の状況に応じたより適切なメンタリングを推進できる。本学の e ラーニング実施に関する技術的・運用的な支援に関しては、旧メディア情報センターの解散（2011）に伴い、図書館及び情報システム室がその役割を担っている。

２）e ラーニング科目と単位認定

本年度（2013 年度）は、正規科目のうち６科目（計 12 単位）を「e ラーニング履修可能科目」として開講した（昨年度は 11 科目 18 単位）。これらの科目については、e ラーニングのみで単位取得が可能であるだけでなく、通常の対面授業も実施しており、学生は科目担当教員と相談の上、受講の形態を選択することができる。なお、具体的な e ラーニング科目については、先に示したカリキュラム表のとおりである。

３）現状の問題点と改善に向けての取組み

本学の e ラーニングに対する取組みは、2005 年度に本格稼動の後、本学の教育の特徴の一つでもある個別教育の具現化、及び、多様化した学生に対する教育の質向上に一定の成果をあげてきた。しかし、極めて早い社会の動きの中において、科目内容の見直しスピードに教材開発が追い付かず、e ラーニング履修可能科目は減少の一途にある。

一方、「e ラーニング履修科目」としての設定は減少しているものの、Web 上に授業教材（スライドや実習ビデオ等）を置くことや、小テスト、課題提出、レスポンスアナライザの利用等、e ラーニング教材や ICT 環境を授業の質向上に活用する事例は本学内でも数多く認められている。これらの授業においては、e ラーニング教材を素材として、授業内外での積極的な学修行動を促すよう科目担当教員の工夫がなされている。しかし、懸念点として、これらの授業の中において、どの程度 e ラーニング教材を活用するかどうかは各科目担当教員に任されており、その全体把握は現在のところ不十分であるほか、教

員間で運用ノウハウが共有されているとは言い難い。
これらを踏まえ、反転授業、アクティブラーニングの手法を活用した対面授業の質向上、授業アーカイブなど、求められるそれぞれのシーンに基づいて、「教育への ICT 活用」という観点から、大学としての取組みを再構築するべき時期にあると考えている。

（４）実践教育

１）取組み背景と目的

本学では学内における座学・演習・実習だけでなく、本学敷地以外をキャンパスとした教育活動を行っている。これは現場における実学を中心とした実践教育を行い、様々な場面での社会人としての礎を養うことを目的としている。また短期大学は就学年数が２年と短いことに加え、昨今の就職活動の早まりから、将来の進路選択に十分な知識がないままその時期を迎えてしまう問題もあった。これらの判断材料となる知識を得るためにも実践教育が必要と考えている。

２）主な活動

主に次の科目において実践教育を中心とした授業展開を行った。

プロジェクト研究 I, II, III

プロジェクト研究は、学科専門科目として開講されている科目に対して、その内容を横断的に取扱い、さらに専門科目群の実践の場として実施している科目である。この科目は各教員がテーマを設定し、それに対して希望する学生が主体的に参加する形態をとっており、原則２セメスターから４セメスターまでを同じテーマで取り組む。

ある専門ゼミナールでは、東海大学付属自由ケ丘幼稚園の保護者向けの Web コンテンツ作成に取り組んだ。学生はデジタルカメラやビデオを用いて園児たちの日常・行事などを撮影し、作品を作成する。その作品を Web ページ上で保護者向けに公開する。また、幼稚園の夏祭りや本学建学祭などのイベント時に作品の公開上映などを行う。具体的には、撮影に関しては、取材スケジュールの調整、スタッフ調整、企画などの事前作業（プリプロダクション）、そして実際の撮影（プロダクション）さらに写真や動画の編集、公開（ポストプロダクション）などを行う。この過程の中で、専門科目として開講されている授業だけでは知識や技能を学ぶことができない範囲を、実践として取り扱う。

スポーツマネジメント論Ｂ

スポーツマネジメント論Ｂは、日本と諸外国の体育・スポーツの現状を把握することからスタートし、スポーツ施設に関連する法制度について学修する。また、スポーツオペレーションやスポーツサービスなどについて意味や考え方を紹介する。さらに、今後の公共施設や民間施設のマネジメントが目指す方向について理解したうえで、実際に民間スポーツ施設と公共スポーツ施設の視察を行う。これら２回の学外実習を踏まえて、これからの体育・スポーツについて検討し、より快適な「スポーツ施設」について考える機会とする。

民間スポーツ施設は、都心部のスポーツ施設（セントラルウェルネスクラブ天神ソラリア）、及び郊外のスポーツ施設（セントラルウェルネスクラブ野間大池）を訪問する。地域環境に適応した各スポーツ施設及びプログラムを体験し、１）日本の民間体育・スポーツ施設について、２）今後の民間スポーツ施設マネジメント、３）スポーツオペレーションの方法、４）スポーツサービスの手法などについて学ぶ。

公共スポーツ施設は、北九州市所有の本城陸上競技場を訪問する（指定管理者：スポーツパークパートナーズ本城）。当該施設の管理運営マネジャーより、グラウンドの整備、施設の管理運営方法について講義を受ける。

（５）一貫教育

東海大学付属第五高校に対しては、３年生を対象とした高大連携授業を実施すると共に、付属推薦入試候補者のうち成績上位者を対象にした体験留学制度を入学前教育として行っている。東海大学付属第五高校の「現代文明論」科目への講師派遣も行っている。さらに、折尾高校、筑豊高校、小倉商業高校、宇美商業高校（以上４校とも福岡県立）と高大連携授業の提携を行い、情報国家資格取得支援を中心と

して講師を派遣している。

１）東海大学付属第五高校との高大連携授業

東海大学付属第五高校の生徒に対して、高等教育機関で学ぶ内容を早期に体験させ、その基礎知識やスキルの修得を目指していく中で、卒業後の進路選択に向けた付加価値の創出を目的として実施した。2013 年度は「情報」「デジタルアート」「PC 検定」「韓国語」「中国語」「観光」「スポーツ」の７コースを設定した。対象は全３年生（サイエンスクラスを除く）とし、１月から２月の全３回を体験版として関心ある３コースを体験できるようにした。それを踏まえてコース希望調査を行い、４月から７月までの間で全８回の授業を実施した。

全３年生を対象としていることから、大勢を抱えるコースもあり、また生徒の希望に沿ったコースが設定されていないなどが起因し、モチベーションの維持に苦慮するなどの部分も見受けられた。しかし、「PC 検定」では検定にチャレンジして合格する生徒も出るなど一定の成果をあげることはできた。また、この連携授業をきっかけとして、本学に入学する生徒も出るなど、当初の目的は十分に果たせている面が見受けられる。次年度に向けて、各コースでの授業運用方法などの改善を図りながら、双方にとってより意味のある連携体制を整えていく必要がある。

２）体験留学

今年度は該当者がいなかった。この体験留学制度は毎年実施しており、「東海大学付属高等学校特別奨励入学制度」に該当する成績優秀な生徒を対象に、早い段階で大学の専門教育を受講させ、大学･高校への接続をスムーズにし、大学への入学前の準備を充実させることを目的にしている。本学園の特色の一つである一貫教育の推進を図る重要な制度であり、今後も内容の充実と一貫教育の連携に努めていきたい。

３）東海大学付属第五高校　現代文明論

東海大学付属第五高校の１年生に対して、より専門性の高い講義を行うことでその後の勉学意欲向上と早期に高等教育機関への関心を高めることを目的として実施している。

2013 年度は３名の講師を派遣し、「大学的視点からの現代文明論」、「国際文化の視点における現代文明論」、「情報処理の視点における現代文明論」の内容で講義を行った。付属生に高等教育機関への関心と意識を持たせる上で重要な役割を担っており、今後も継続実行していく必要がある。

４）福岡県立４高校との高大連携授業

連携校である折尾高校、筑豊高校、小倉商業高校、宇美商業高校に対して、情報系国家資格の取得支援（担当：宮川准教授）を実施している。対応する試験は「基本情報技術者試験」と「IT パスポート試験」である。授業運用体制としては、本学内で運用しているコンテンツマネジメントシステム（Moodle）を活用することによる、完全ｅラーニング体制のもと実施した。高校側での情報系国家資格の希望者が減少傾向にあり、情報国家資格を希望する生徒がいない高校もでるなど、高校での指導体制も変化してきている。これに伴い、本学からのコンテンツ提供状況も授業の主教材として活用し、主たる支援を希望する高校と、補助教材としての活用に留める高校も出てきている。

本学の教育の特徴を近隣の高校に提供することは、双方にとって意義のある取り組みであるので、支援体制の新たなる構築を行うと共に、連携の幅を拡げていきたい。